

総合学習CAN

総合学習CANとは

本校の総合学習CANは、次の言葉の頭文字をとったものです。

C・・・Cluster（クラスター） 異学年による小集団

A・・・Action Learning（アクションラーニング）対話をもとにした交流学习法

N・・・Narrative Approach（ナラティブ・アプローチ）振り返りによる自己理解法

総合的な学習の時間を使って、私たちの身のまわりの世界すべてを対象に、興味ある内容を探究し、自らの可能性を拓げていく附属坂出中学校だけの「生徒主体の開かれた学習」

です。生徒は現実の生活の中から自らの興味・関心に応じたテーマを選びます。そして正統的周辺参加論に基づき、1～3年生、がそれぞれ1名ずつ参加してクラスターを組み、探究活動を行います。大切なのは、自ら経験することで気づきが生み出されていくプロセスなのです。

総合学習CAN 現実の問題の探究

クラスター(異学年小集団)

正統的周辺参加

総合学習CANの研究について

【研究の定義】

本やインターネットで調べてまとめる「調べ学習」ではなく、ある事物や現象について、実験・観察・調査などを通して分析し、まだ、だれも気づいていない事実や法則やものを発見することです。

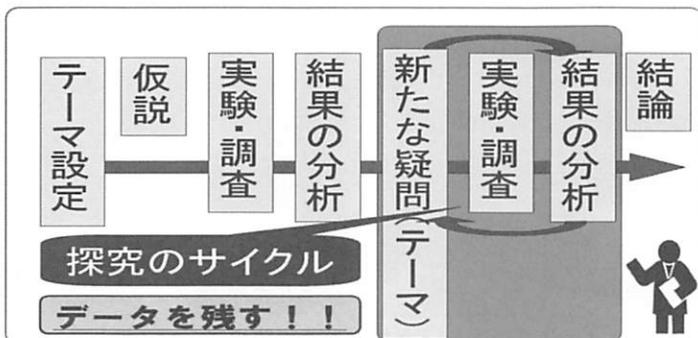
【探究課題（テーマ）設定のコツ】

- ① 今までの学習や経験したことを活かす
- ② 身近な不思議や興味のあることに着目する
- ③ 今までの原理や法則、学説などを疑う
- ④ これまでの研究を継続・発展させる

【研究テーマの例】

- ・ clean 発電研究所（視点①④）←昨年からの発電の研究を継続
- ・ 人の行動や心理にはどのような傾向があるのか～あなたはどれを選ぶ？～（視点②③）
←人の行動に関する不思議を様々な視点から研究

はじめのガイダンスで、説明します。



研究を深めるためには、蓄積したデータを分析し、その中に新たな疑問や次のテーマを見出していく探究のサイクルが重要であることをおさえます。

C : Cluster (クラスター) について

Q クラスターはどうやってできるの？



2年生

「興味のあることマインドマップ」で、
自分の探究の方向性を考える



1年生

まずは「1人CAN」からスタート！

- ・マインドマップをもとに教師と面談
 - ・ミニAL会議
 - ・3年生からアドバイス
- テーマの種や探究仮説を作り上げていきます。



探究課題・テーマ
を決定

探究仲間を求める
MIを3つ決定

MI とは自分の才能や得意なことで、
次の8つのプロフィールから成ります。

言語：言葉で伝える、聞き取る

論理：筋道を立てて考える

空間：イメージして絵や立体で表す

身体：目的に応じて体を動かす

音楽：演奏や作曲や鑑賞をする

博物：原理や仕組みを調べる

対人：他人の気持ちを理解する

内省：自分自身を見つめ直す

そして・・・第1次クラスター編成会議

1年生が2年生のマインドマップから選びます



2年生

自分のマインドマップに興味を持ってくれる人
はどれだけいるのかな？



ぼくのマインドマップとよく似ているな。この先
輩と一緒に探究していきたいな！



1年生

自分のマインドマップを
選んでくれた、この先輩
とがんばるぞ！



1年生

2人(1年生・2年生)クラスターの決定

一人だけではたぶんできなかった
ようないい探究ができそうだわ！



2年生



【第1次クラスター編成会議で研究仲間を選ぶ】

2人CANによる

探究テーマ設定期間 3月～4月



新2年生



新3年生

やがて新1年生が入学・・・

新1年生が1人CANで

探究テーマの種を考える



新1年生

そして第2次クラスター編成会議

1年生が2・3年生の探究課題・テーマから
探究内容やMIをもとに選びます

異学年(1～3年生)合同3人クラスター完成
5月



【新1年生へのプレゼン】



【卒業を控えた3年生による探究のアドバイス】

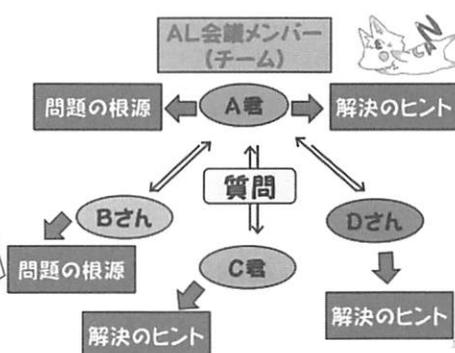


A : Action Learning (アクションラーニング) について

各クラスターでの探究活動を固定的なものとするのではなく、新入生への勧誘活動や中間発表会などで他のクラスターの活動を見たり、探究テーマに接点のあるクラスターを集め、研究内容についてAL会議（アクションラーニング会議）をしたりします。このような意図的なはたらきかけを行うことにより、自分たちの研究を見つめ直す共同的な学びの実現をめざしています。25年度からは、探究のスタートである1人CANの時間に同学年や3年生とのAL会議を設定したり、附中カフェやCANランチを新しく設けたりしました。教師のはたらきかけはもちろん、生徒やクラスター同士が刺激を与え合いながら有効に活動しているように工夫しています。

例えばA君は人気のお菓子を開発しようというテーマで探究をしていますが、探究がうまく進みません。そこでAL会議に参加しました。AL会議の中で他のメンバーは「お菓子とは和菓子なのか洋菓子なのか」「どの年齢層をターゲットにお菓子を考えているのか」「その商品の売りは何なのか」といった様々な質問を投げかけます。A君はそれに答えていく中で、チームや自分が本当にしたかったことは何なのか、問題の根源は何かに気づき、解決へのヒントを見出ししていきます。

アクションラーニング会議



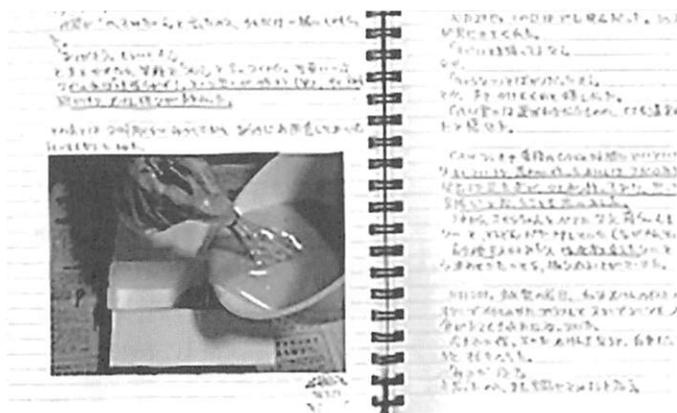
N : Narrative Approach (ナラティブ・アプローチ) について

CANでの活動を振り返り、自分自身がどのように感じながら研究に取り組んできたか、自己の内面を見つめ、自己を語る(ナラティブ・アプローチ)ための有効な手段としてCANLOGを活用しています。

CANLOGとは

研究を振り返る「CANLOG」は自分だけの研究ノートです。夏と秋には、CAN物語として自分の研究物語をまとめます。夏は主にCANの日について、秋はその年の総決算として物語を書きます。

その過程で、自己とじっくり向き合い、過去と現在の自分を比べ、考え方の変化や成長に気づくことができます。



- ①日々の振り返り
- ②豊富なデータ
- ③物語がすばらしい
- ④時間外の探究あり



今期のCANの実施前の課題

年々改善を行い、生徒の中にも探究する文化が次第に定着してきているが、さらに探究を深めるために次の3点が課題としてあがっていた。

- 生徒の探究をどのように評価していくか。CANの探究は実験や調査の成功や、よりよい結果が得られれば良いものではない。探究の過程を評価するための視点や生徒の目に見えるチェック表などが必要である。
- MIやマインドマップを探究の過程の中でいかに生徒に意識づけていくかということ。昨年度はクラスター編成の際にMIの視点を取り入れているが、マインドマップは描くだけで十分な活用ができていなかった。そこで求めるMIやマインドマップをクラスター編成会議やプレゼン発表に取り入れていくことで、多様な視点からの意見や発表が行われ、研究がさらに深まるとともに、生徒の自己有用感を高めることができるのではないかと考える。
- 昨年度までは課題設定の際にどのように考えていけば良いかの説明や、生徒が考えた探究課題に対するアドバイスのしかたが、教員により大きな差があった。課題設定における教師の関わり方をマニュアル化し、どの担当教員においても生徒の探究課題に対して的確なアドバイスができるようにすることが必要である。

教師のかかわり方の工夫

CANカード（評価の視点）

項目	①	②	③
マインドマップ	1人CAN STEP!	STEP	JUMP
探究課題 (1人)	1人CAN STEP!	1人CAN STEP!	1人CAN JUMP!
探究課題 (2人)	HOP	STEP	JUMP
探究課題 (3人)	HOP	STEP	JUMP
夏物語	HOP	STEP	JUMP
プレ発表			
文化祭	HOP	STEP	JUMP
秋物語 (外部発表)	HOP	STEP	JUMP

(コード番号 氏名)

表 【生徒の探究の成果を記録する「チェックシート」】

28年度より生徒全員がCANカードを作り、表面は探究過程の深まりをシールでチェックし、裏面は自分の探究課題の変遷が一覧で分かる、「あしあと」として記録している。

月日	時期	探究課題	課題変更の理由
2016 冬	1人CAN 前半	再生可能エネルギー	7-シート
	1人CAN 後半	再生可能エネルギーはエネルギー問題を解決できるか	複製と9AL
2016 春	2人CAN (1年生へのプレゼン)	屋上に設置した風力発電機で豆電球を何個を点灯できるか	
	3人CAN 初期		
2016 夏	3人CAN 中期 (夏休み・CANの日)		
	3人CAN 後編 (7月発表・文化祭)		

裏 【生徒の探究課題の変遷を記録する「私の探究課題のあしあと」】

教師のかかわり方マニュアル

教師の関わり方について、探究課題を考える際や新たな資料を配る際に、どのように生徒と接することができるか、マニュアル化して参考になっている。

教師の関わり、アドバイス例

「何を持って〇〇」を証明するの？効果があつたとするの？」

「もっと対象をしぼって考えると？」 「この研究の対象は？」

「例えば？」 「〇〇というのを具体例をあげていうと？」

「この研究は実現可能ですか？」 ※

(※電車の利用者を増やすなど、中学生ができる範囲を超えた探究かもしれないが、今はとめずにさせる?)

クリティカルに問う!!

疑問 (What 系)

・「～って何？」

・「何から？」

根拠

(Why 系)

・「なぜ？」

・「どうして？」

手段 (How 系)

・「どうやって？」

・「例えば？」

・「もし？」

・「逆に言うと？」

仮定 (If 系)



注意点

- ・ 探究の評価をする際に「結果がよかった」ことや「成功した」ことを評価するのではなく、「過程がよかった」探究を高く評価する。(失敗でも過程がいいものも評価する)
- ・ 賞をもらうための探究になってしまわず、素朴な疑問を探究課題にするのもよい、科学系が多く、文化系が減ってきた
(方言、小説づくり、坂出の歴史フラタモリ、ゆるキャラなど)
- ・ 教師の関わり方の指標や観点がわかるフォーマットやマニュアルのようなものがあるとよい。
- ・ 昼のテレビ放送が科学系にかたよらず文化系のものを

マインドマップの活用

1人CANにおいて、自分の探究課題を考える前に自分探しのためにマインドマップを利用したり、クラスターの相手を編成する際にマインドマップを参考にクラスターの相手を選んだり、編成材料として利用したりしている。



【1次編成において2年生のマインドマップから自分の希望する相手を選ぶ】

課題設定の深化

25年度の探究課題一覧表の一部と27年度のを比較すると、

この間に・何を明らかにするかの課題の焦点化すること

- ・課題を疑問系にすること

- ・どのようなデータを取ればそれが実証できるか明確にすること

などをワークシートや教師の関わりによって深めた結果がよく分かるものになった。

【平成25年の探究課題一部】

クラス No	H25テーマ一覧
1	紙飛行機を良く飛ばすには
2 奨励賞	これ、おいしいの？オリジナルパンレシピ開発！！
3	おいしい食べ物の組み合わせ
4	ビートルファーム研究所
5	3人の武将と城
6	「果物生活」をつくろう
7 CAN賞	数と数字と日本人
8 部門賞	「トランプ研究所」～リベンジ～
9	vegetable makers
10	Movie Makers
11	中学生が好きな本を考えよう
12	バスケットボールシューズの開発
13	ドミノでexperiment
14 部門賞	希少糖を使ったカロリーの高いスイーツを作って健康になろう
15	声優から学ぶ発声法
16	身近な？の解明
17	Smile 研究所
18	音楽と身体の関係性
19	心理テストは作れるのか！？
20	楽しくおかしを作ろう！！
21 奨励賞	ガマンしない！食べてキレイにやせ隊！！
22	理想のリラックスルーム研究所
23	Let's eat オリーブオイルの力
24	野菜ジュースで野菜嫌いを克服しよう
25	New sports を作ろう
26 奨励賞	TBM放送局
27	夢のチリトリ開発隊
28	身体能力の低さを補うための新たな性能をもった道具をつくろう
29	死亡率の低い交通システムを考えよう
30 CAN賞	香川県の学力をあげよう ～日本の歴史のカードゲームの開発～
31 奨励賞	坂出市のゆるキャラを作ろう
32	ちょいたしスイーツ研究所
33	ことわざ実践
34	未知の味 探究プロジェクト
35	理想的な××を見つけよう
36	じゅーず
37	野菜ジュースで嫌いな野菜を克服しよう
38	野球マンガの技を習得しよう
39 奨励賞	MUSIC HOUSE～リラックス研究所～
40	音楽と性格
41	新しい文房具開発
42	自分に合った読書の方法を見つけよう
43	バドミントン研究所
44	生物の不思議研究所
45	テストで点数UP 効率の良い暗記方法
46 奨励賞	ホットケーキミックスを使ったアレンジレシピ研究所
47	世界一のカミチョコキ
48	目を良くする方法
49	成長を助ける理想の料理研究所
50	優しい文房具を企画しよう
51	カマタマレ 樹液の観客動員数を上げるためには？
52 部門賞	舞踏研究所～あなたの文字を鑑定します～
53	視力回復トレーニングは効果あるのか？
54	スマホアプリ研究所
55 寄賞賞	坂出ゆるキャラ考案所～ゆるキャラ上位から学ぶ～
56	桃を七変化させよう！！
57	声が与えるイメージへの効果
58 奨励賞	附坂中ナップソックスを新しくデザインしよう
59	音楽の効果って…勉強効率upしよう～

【平成27年の探究課題一部】

1	音楽聞いて運動するって本当に効果あるの？ ～結果がでたら体育で音楽流せるの～
2	暗記力強化プロジェクト ～より多くの文字列を覚えよう～
3	野菜苦み研究所～どうすればおいしくなるか～ ゴーヤの苦みをなくしたい。そんなあなたの要望に応えます。
4	附坂中の新しい体操服をつくろう。
5	身長伸びるスポーツと伸びないスポーツの違いは何だろう。
6 奨励賞	へりうむヘリウムHelium飛行船 ～飛行船の操作性を上げるには～
7	集中力UPの方法とは
8	附坂中旅行社 そっだ、どっかに行こう
9	人気になるドラマとは何か？
10	スゲーことの確立をUPさせよう
11	オリジナル道員考案所 ～ありそうでなかった道員を考案しよう～
12 奨励賞	相性からわかるあなたの性格！ ～人との相性は何と関係するのか～
13	Let's make a song! ～違いを見つけて曲をつくろう～
14	シュークラブ ～丸だけじゃない？シュークリームは作れるか～
15 課題設定	一番ストレスのかからない音楽の種類は？
16	アクション映画撮影 ～素人でもハリウッド作品のような作品を作ることができるのか～
17	トマトを好きでも嫌いでも食べられるトマトドーナツはあるのか？
18	ホームラン量産project -中村剛也を目指して-
19	「VOICE」～声優や歌手から学ぶ発声方法+ストレッチ方法～
20	手軽でヘルシー、絶品スイーツ
21	酸味がダメな人向け！「ミラクルフルーツ」で酸っぱいものをおいしく食べよう！
22	ホットケーキミックスを使ったふわふわパンケーキ
23 寄賞賞	人の行動や心理にはどのような傾向があるのか
24	学校紹介ムービーを作ろう
25	坂出市民はメジャーとマイナーに分類できるのか？ ～インタビュー結果とその関係性は～
26	連続で打率を上げるには？
27	食べ物×スポーツとは ～記録UPのための秘密兵器を！！～
28	システム研究所 ～バグはどのようにして起きるのか？～
29 表現力賞	今人気のスイーツ考案研究所 ～誰もが食べたくなるクッキーとは？～
30	有効なストレッチとは？ ～自分たちでオリジナルストレッチをつくろう～
31	まじゅまるとあうおがずは？ ～まじゅまるとおがずを組み合わせると何が一番合うのか～
32	こちら又流大道言人養成所 ～BGMが人に与える力とは？～
33	スイーツで舌手完結！！ ～野菜・フルーツを使って～
34	「植物 water プロジェクト IV」 ～どんな種類の水で植物が最も成長するのか～
35 奨励賞	SHP「スマイル ハッピー プロジェクト」 ～笑うとどのような効果があるのか？～
36	寝た後に飲むとよいDrinkとは？
37	食べ物の力で、1ヶ月で1cm以上身長は伸びるのか？ ～1cm以上伸びたら、神だー！！～
38	反射神経を良くして、さらにスポーツを極めよう
39	サーティーワンの新商品を考えようプロジェクト！！

「CAN夏物語」で自分の学びを語り直している例

今回のCANの日ではデータ数を増やすという課題を達成した上、新発見もあった。計算のようにひたすら問題を解き続けるときはミッキーマウスマーチのような曲を聴きながらするとよいこと。また曲を聴いてからの方がよい人もいること。今回のCANの日はとても充実した

ものになった。今、CAN夏物語を書いていて気づいたのはシャトルがCANにつながっている、ということ。私は「白熱！変数教室」だった。今回実験中に知らないうちに固定する変数や入力変数を決めていた。シャトルはとてもたいせつだなあ、と思った。

「CAN秋物語」で自分の学びを語り直している例

ブレ発表のとき、〇〇先生が私たちの説明を聴いて終わると、「それぞれのなわとびのデータをとってみたら？そうするともっと相手が納得してくれるのでは？」とアドバイスをくれた。そして文化祭当日、私たちのクラスターでは保護者から小さい子どもまで来てくれてにぎわった。きちんとデータを取ってくるこ

とができたので、より相手を納得させることができた。私の友達が3人ほど来たとき、3年の先輩が「説明してごらん」と私にチャンスを与えてくれた。私はブレ発表のときの先輩の姿を思い出して、説明してみた。友達は「うわぁー、すごい！」と言ってくれた。自分でも達成感があった。(一部抜粋)

「CAN秋物語」で自分の学びを語り直している例

〇〇先輩は聞いている人が飽きないように、いくつかのところで質問したりしていた。△△先輩は、強弱をつけたり、わかりやすいように大きな声で説明したり、ハンバーガー店での自分の感想も入れたりしていた。□□先輩はまたぬきショットについて、聞いているぼくらに「分かる？」など確認したり、ゆっくり説明したりしていた。××先輩はハミングやリズムを整えるのを実際にやってみせてくれた。このように、説明のしかたも工夫することで聞く側の興味も変

わるのではないかと思った。

今年の1年目でCANがどのような流れか大体わかり、先輩との役割分担や協力、説明の仕方、発表内容のまとめ方も分かり、これからのCANでも調べと、結果を出す参考になった。2年生では3年生をサポートすると同時に、1年生として仲間になる人にアドバイスしたり、教えてあげたりしようと思う。CANは自由に調べ、これからの社会に活かせるものだということ。

(一部抜粋)

「CAN秋物語」で自分の学びを語り直している例

3年間のCANを振り返って、自分の追究する能力が上がっているように感じる。1年生の頃は先輩について行くことしかできず、調べ学習が目立っていたが、学年が上がるにつれて、本当に自分が知りたいことを、自ら行動し、比較し、

考えることができるようになったと思う。後輩の皆さん、探究の途中で行き詰まることもあると思うけど、その壁を乗り越えればよい結果が待っていると思うのであきらめずにがんばってください。(一部抜粋)

研究の評価について

CANでは成功や成果、作品の完成や発表を最終目標としていません。失敗することも許される学習です。たとえば思うような結果が得られなかったとしても、自己を振り返り、失敗の原因を探り、未来につながる自己物語が生成されます。それこそが現実社会での問題解決に生きて働く力になると考えます。また、私たちの生活の中で良きモデルを見つけ、それを「まねる」ことから学びが始まるように、目指すべきモデルを示すことは探究活動を深めるのに有効です。そこで、賞を設定し、表彰を行うことで探究力と意欲の向上を目指しています。

【優秀研究 CAN賞】（3～5クラスター程度）

次の①～⑤の観点に基づき、優れた探究活動が行えたクラスターを全体の研究から選ぶ。

- ① 先行研究や実践をしっかりと調べられている。
- ② 自分の研究するテーマや対象を具体的に絞りこめている。
- ③ 現場に行ったり、実験を行ったりなど、行動できている。
- ④ 客観的なデータを十分残せている。
- ⑤ 探究の結果明らかになった成果や課題といった結論がきちんと出せている。

副賞としてオリジナルバッジや楯などが与えられます。



【最優秀研究 青雲賞】（1クラスター）



※CAN賞の中から一つ選ばれる

その年度のなかでもっとも優れた探究活動をおこなえたクラスターに与える。CAN賞に選ばれた研究が、文化祭にてステージ発表を行い、生徒や教師、保護者による投票により、最も優れた研究の一つ選出する。

【部門賞】（各部門につき1クラスター）

「課題設定力」「課題追究力」「表現力」「チームマネジメント」といった、シャトルで学んだ各スキルを探究活動や発表のなかで十分に活かすことができていたクラスターに与える。



【研究奨励賞】（10～15クラスター程度）

CAN賞には届かなかったが、意欲的に探究活動を行うことができていたクラスターに与える。



【CANLOG賞】（5名程度）

次の①～③の観点に基づき、CANLOGを十分活用できた生徒に与える。

- ① 日々の振り返りの記述がしっかり書けている。
- ② データや記録が細かく残せている。
- ③ 夏、秋の物語が内容・分量ともに優れている。



【 H26 最優秀研究 青雲賞 】

「clean 発電研究所」



【試作品でつくった風力発電機】



【 H27 最優秀研究 青雲賞 】

「人の行動や心理にはどのような傾向があるのか～あなたはどれを選ぶ?～」



【文化祭でステージ発表する様子】



26年度の表彰

【 最優秀研究 青雲賞 】

「clean 発電研究所」

風力発電の研究として、うるさく、風が弱いと発電できないというような悪いイメージがあったが、そんなイメージとは正反対の安く静かでそよ風でも発電できる模型を作り、実験を重ねた。

26年度 青雲賞受賞クラスターのリーダー 研究について語る！

Q 研究はどのようにして進めていきましたか？

A 3人で作る人とデータを取る人など役割分担をして進めていきました。それぞれが自分の得意分野で深められることを深めていき、一日の最後にお互いのやったことを共有する時間を設けるなどして進めていきました。

Q この研究は自分にとってどのようなものだったのですか？

A 私1年生の時から青雲賞を取りたいと思っていて、1年生の時はCAN賞だったけど、先輩からがんばったら青雲賞が取れると言われ、がんばって本当に取れたので努力の結晶だと思います

【 優秀研究 CAN賞 】

- ・「憶える方法を考え隊！」 ・「トランプ研究会～NEXT～『心理学を使った必勝法』」
- ・「植物 SOUND s プロジェクト」 ・「音による人の心の変化」

【 部門賞 】

- 課題設定力賞 「声を出して馬鹿力 part2」
- 課題追究力賞 「附坂中のオリジナルムービーを作ろう」
- 表現力賞 「PR動画作成」
- チームマネジメント賞 「さようなら！方向オンチ」

他にも、バナナの皮にいろんな条件を加えて、本当にすべるのか実験した「バナナでつるん」、肌に優しい手作り石鹸の秘密を解明しようとした「オリジナル石鹸を作ってみよう」など、の研究に研究奨励賞が贈られました。

26年度 クラスターNo.115
附坂中ナップサックを新しくデザインしよう！



「今の附属坂出中学校のナップサックは完全じゃない！」と立ち上がった3人が、生徒アンケートからさまざまな意見を分析し、改善点をまとめ、最後に生産工場で、夢のナップサックをつくってもらいました。

27年度の表彰

【 最優秀研究 青雲賞 】

「人の行動や心理にはどのような傾向があるのか～あなたはどれを選ぶ?～」

5つのリンゴがあればどれを選ぶか?そんなときの人の行動に傾向が見られるのかと思い、調べてみると…、さまざまな条件に左右される驚きの検証結果が得られ、文化祭のステージではその結果を発表しました。

27年度 青雲賞受賞クラスタのリーダー 研究について語る!

Q なぜ、このテーマにしたのですか?

A 最初はメンタリズムやマインドコントロールについて研究しようと思っていました。しかし、それらを行うためには、人の行動や心理について知る必要があったので、人の行動の傾向について調べることにしました。

Q 研究で苦労したことは?

A リンゴを用いたアンケートを作るのに苦労しました。人の行動といっても、それを調べるための質問を考えるのは、とても難しく、とても時間がかかりました。

Q 研究はどのようにして進めていきましたか?

A まず、アンケートや調査でデータ収集をしました。

その後、データを分析して、様々な観点から人の行動について調べました。

Q この研究は自分にとってどのようなものだったのですか?

A 今回この研究をする上で、たくさんの人に手伝って頂きました。人の行動の傾向だけではなく、友達や先生方の優しさや温かさに触れることができ、とても良い研究でした。

【 優秀研究 CAN賞 】

- ・ホラゲ研究所～人の求める怖さとは?～
- ・最も性能の良いシャーペンの芯とは?～値段と芯の強さには関係があるのか～
- ・テレビ番組の人気UP法則～テレビから見えてくる興味を引く工夫って?～

【 部門賞 】

課題設定力賞 「一番ストレスのかからない音楽の種類は」

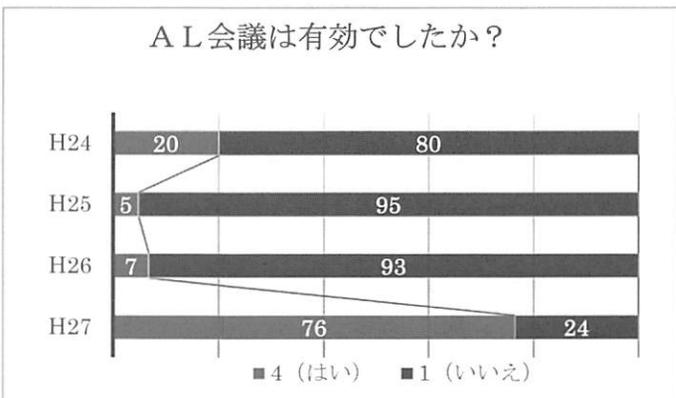
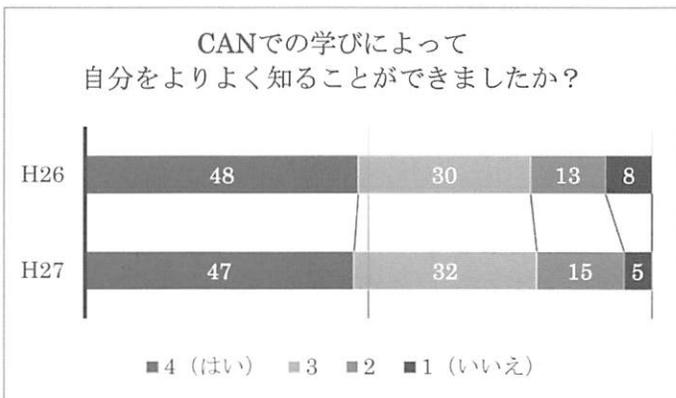
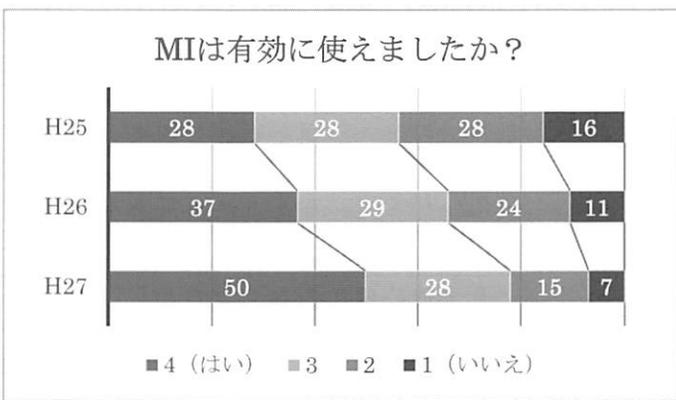
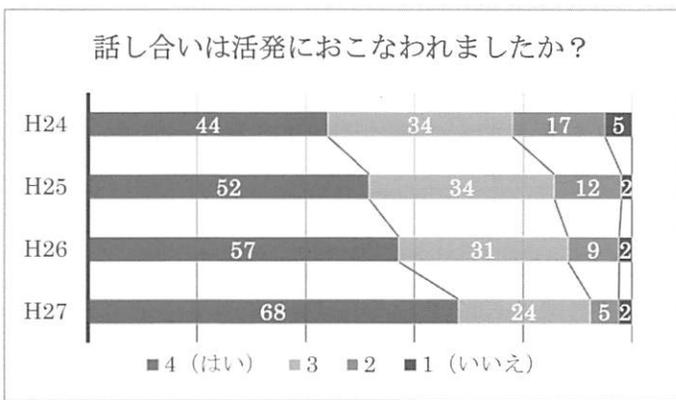
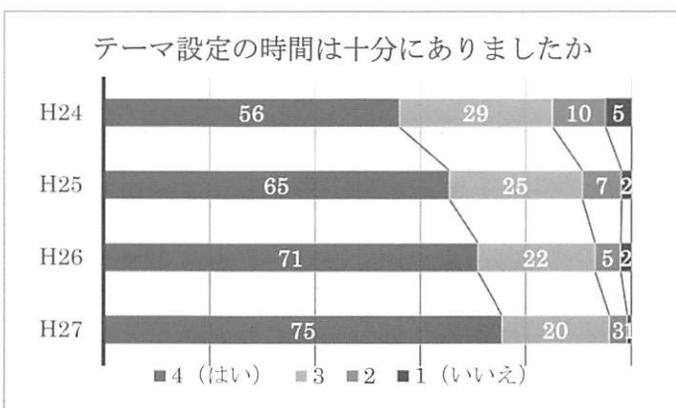
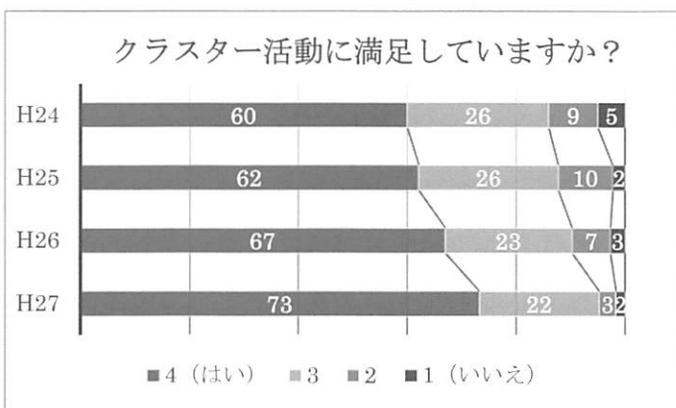
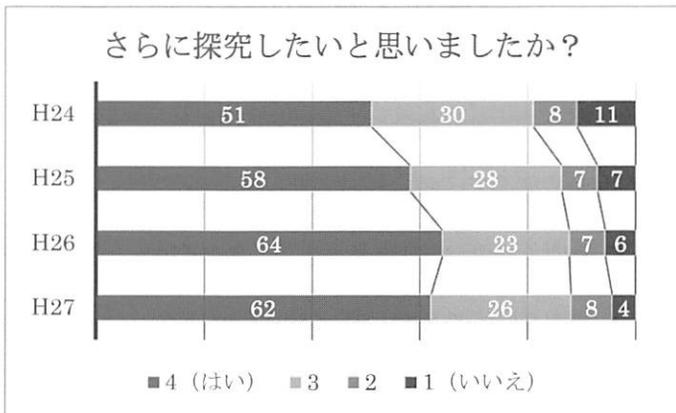
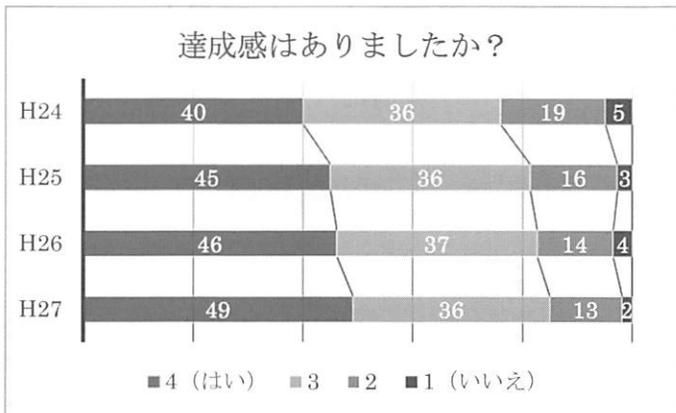
課題追究力賞 「Mechanical Pencil Center～書き続けても疲れないシャーペンとは?～」

表現力賞 「今人気のスイーツ考案研究所～誰もが食べたくなるクッキーとは?～」

チームマネジメント賞 「希少糖倶LOVE♥2～希少糖はどんな料理に合うのか～」

他にもお菓子とジュースのおいしい組み合わせを探究したクラスタや、自作のマンガで暗記した方が覚えやすいか研究した「マンガで教育!」などの研究に研究奨励賞が贈られました

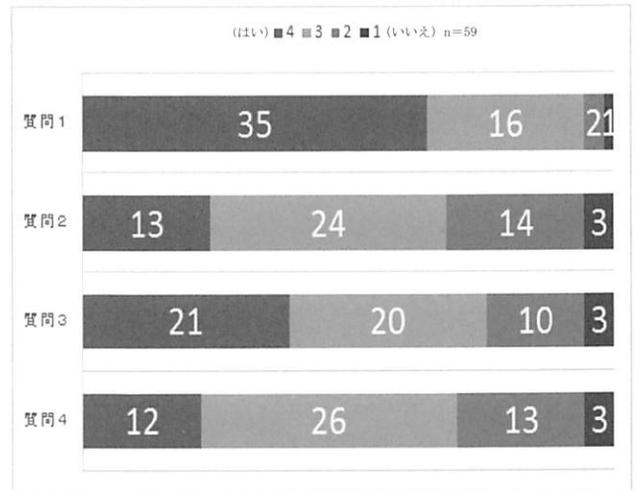
在校生アンケート H28.2実施 n=360 (数値は%)



総論
国語
社会
数学
理科
音楽
保健体育
技術家庭
外国語
学校保健
総合

【本年1月に実施した平成24年度卒業生へのアンケート結果】

- 質問1 CANをしているときは楽しかった。
 質問2 何かに挑戦しようとするとき、CANで学んだことは役立っている。
 質問3 他者と協力し、何かをするとき、CANで学んだことは役立っている。
 質問4 失敗の原因を探るとき、CANで学んだことは役立っている。



<3年前のCANを振り返って>

失敗の原因を追究し、策を練り、改善する。そういう流れを中学生のときに学ばせるCANは大学生になって研究室に配属された際などに大変役に立つと思います。高校でもレポートを書く機会などがあり、自分の興味のあることを探究する活動があり

ますが、授業の一環として本格的に行うものではありません。自分の興味のあることを一年通して探究する活動は自分の将来設計においても役立つと思います。(実際、分離選択や学部等で悩んでいた同級生も多かった)これからも続けていってください。

上記の質問と絡めてCANというカリキュラムを「思い出す」ことはあります。興味見識の薄い中学生の頃は研究テーマを探すにも一苦勞でした。膨大な時間を費やせるので何か一つ成し遂げてみたいとは思っていましたが、まずそこまで熱が入る内容が見つからず、なんだか有耶無耶になって

しまったのを覚えています。が、大学でやりたいことや将来成し遂げたいこと、学部等が決まった今、CANみたいな時間や機会が喉から手が出る程欲しいです。この熱望をそのまま受験と大学生活にぶつけたいと思います。

希少糖の研究の為、香大の農学部へ行った事は楽しかったが、分子レベルの話はおぼろしくすぎてよくわからなかった。しかし、

今、希少糖が香川県の名産になっている事はとてもすばらしく、すこしでもかかわれた事に感謝しています。

何といっても全校生徒の前で自分の研究したことを発表できたことが心に残っています。青雲賞はとれませんでした。が、やってきてよかったと思えた瞬間でした。チームと協力し研究を進めていった経験は自分

の人生にもプラスになる出来事だったと思います。CANを通じて学んだことを生かして大学、社会人になっても物事を研究する姿勢を持ち続けていきたいです。

部活だけでなく、先輩や後輩とつながる機会が得られて、とても良かったです。また、中3のときCAN賞をとる事ができてとても嬉しかったのを今でも覚えており、その時一緒に研究した後輩とは今でも仲良

くしております。CANは私の中で様々な成長をもたらしてくれました。ぜひ、これからの附坂中の生徒もCANを通して何か発見し成長していってくれたら嬉しいです。

今後の方向性

- 探究内容の発表の際に質問の型を示して教師がかかわることで、生徒同士の聴き合いや問い合いは活発になった。一方、質問に対する返答の内容がかみ合わなかったり、同じ質問ばかりを繰り返す場面が見られたりもした。今後は、さらに生徒同士で探究内容が深まるような聴き合い問い合いができるようなかかわり方を研究していきたい。
- 自分たちの疑問を率直に調べているが、先行研究の分析や参考文献の調査が十分に行われないまま、探究に入ることが多い。その研究、探究に関することがいままでどこまで明らかになっているのかを十分に調べた上で、自分たちだけの独自の探究活動に入れるようにしたい。
- 自分たちの探究を自分で振り返る「CAN夏・秋物語」や毎時間の振り返りは十分にできているが、外部へ発信していく活動はまだまだ乏しい。文化祭でのポスター発表や最終論文の作成などが、そのまま外部発信につながるような探究のサイクルを確立していきたい。